



平成 25 年 11 月 11 日

各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社
代 表 者 名 取締役社長 小 崎 隆 司
(J A S D A Q ・ コード 8 7 0 5)
問 合 せ 先
役 職 ・ 氏 名 取 締 役 杉 本 卓 士
電 話 0 3 - 5 5 4 3 - 8 7 0 5

平成 26 年 3 月期第 2 四半期の連結業績見通しに関するお知らせ

平成 26 年 3 月期第 2 四半期累計期間（平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日）の連結業績につきましては現在集計中ではありますが、決算の概要がまとまりましたので、業績見込みをお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 26 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績見込みおよび業績との差異

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前年同期実績 (平成 25 年 3 月期第 2 四半期累計期間) (A)	2,366	△126	△81	△79
当期実績見込み (平成 26 年 3 月期第 2 四半期累計期間) (B)	2,722	403	475	327
増 減 額 (B－A)	356	529	556	406
増 減 率 (%) (ご参考) 平成 25 年 3 月期実績	15.0	—	—	—

2. 差異が生じた理由

当第 2 四半期連結累計期間におけるわが国経済は、金融緩和や各種経済対策の効果から公共投資の増加が続くなか、輸出は米国向けを中心に持ち直し、企業業績の改善から設備投資も回復傾向となりました。雇用情勢に改善の動きがみられ、個人消費も底堅さを増すなど、内需が堅調となりました。

商品市況は、貴金属が米国株高を背景とした下落から反発、石油は中東地域の情勢不安を受け上昇傾向となった一方で、穀物は米国の干ばつ懸念での上昇から供給不安の後退により反落し、全国市場売買高は 28,435 千枚（前年同期比 109.2%）となりました。

このような状況のなか、当社グループの中核事業である商品取引関連事業における受取手数料は 2,444 百万円（前年同期比 119.6%）となりました。また、売買損益につきましては、石油市場における売買損益が減少したこともあり、36 百万円の利益（前年同期比 39.7%）となりました。

この結果、営業収益は 2,722 百万円（前年同期比 115.0%）となる見込みであります。また、営業費用につきましては、事業再編による経費削減効果もあり、2,318 百万円（前年同期比 93.0%）となる見込みであります。これらにより、営業利益は 403 百万円（前年同期は 126 百万円の営業損失）、経常利益は 475 百万円（前年同期は 81 百万円の経常損失）、四半期純利益は 327 百万円（前年同期は 79 百万円の四半期純損失）をそれぞれ計上する見込みであります。

以 上